

(11) オリーブ ※果実を食用に利用する場合であって、葉を食用に利用する場合はオリーブ(葉)を参照

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 炭疽病 <i>Colletotrichum gloeosporioides</i> <i>C. acutatum</i>	1. 施肥は窒素過多にならないように注意する。 2. 密植を避け、風通しがよいように整枝、せん定をする。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ICボルドー66Dは果実に汚れを生じる場合があるので注意する。 2. 本病を対象にICボルドー66Dまたはクプロシールドで12月～3月(萌芽開始期)までに防除している圃場ではビーコック黒星病の発生が少なくなる。	3月下旬 6月上旬 6月下旬 8月下旬 ～9月上旬	11 12 M1 M1 M3	アミスター10フロアブル セイビアーフロアブル20 ICボルドー66D クプロシールド ペンコゼブ水和剤
2 梢枯病 <i>Coleophoma oleae</i>		4月下旬 ～5月上旬 9月上中旬	1	トップジンM水和剤
3 切り口及び傷口の ゆ合促進		せん定整枝時、病 患部削り取り直 後及び病枝切除 後	1	トップジンMペースト
4 オリーブアナアキゾ ウムシ	1. 成虫発生期に捕殺する。 2. 産卵期からふ化期に園内を見回り、食入部の幼虫を刺殺する。 3. 園内を清潔にし、特に幹の周辺を清掃する。 4. 被害程度の大きい樹は抜根し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. スミチオン乳剤は樹幹(主幹)散布する。1m以下は特にていねいに散布する。 2. スミチオン乳剤は葉や果実に散布液がかからないよう注意する。 3. スミチオン乳剤は、多発生のときは10月中下旬も散布する必要があるが、収穫終了後の散布となる場合は次作の使用回数に注意する。	4月中下旬 6月中下旬 8月中下旬 10月上旬 食入初期	1B 3A 4A 3A	スミチオン乳剤 アディオソ水和剤 ダントツ水溶剤 ロビンフッド
5 ハマキムシ類 チャハマキ チャノコカクモンハ マキ マエアカスカシノメ イガ クロネハイイロヒメ ハマキ	1. 被害葉や被害果実は見つけ次第除去する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. ダントツ水溶剤はマエアカスカシノメイガに登録がある。	発 生 初 期	3A 4A 11A 11A 11A 11A 11A 11A 11A	アディオソ水和剤 ダントツ水溶剤 トアロー水和剤CT ゼンターリ顆粒水和剤 デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF クオークフロアブル ファイブスター顆粒水和剤 チェーンアップ顆粒水和剤
6 ケムシ類		発 生 初 期	11A 11A 11A	デルフィン顆粒水和剤 エスマルクDF ファイブスター顆粒水和剤
7 カメモシ類	1. 防虫ネット(4mm目合以下)で園全体を被覆する。	7月下旬 ～9月下旬	3A 4A 4A 4A 4A	アディオソ水和剤 ダントツ水溶剤 アルバリン顆粒水溶剤 スタークル顆粒水溶剤 モスピラン顆粒水溶剤
8 カイガラムシ類	1. せん定時に寄生密度の高い枝を切り落とし、園外に持ち出し処分する。 2. ワイヤブラシ等でこすり落とす。	発 生 初 期	23 4C	モベントフロアブル トランスフォームフロアブル

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する